

## 2023 年度 第 36 回ミュージック・ペンクラブ音楽賞決定！！

### 《クラシック》

1. ソロ・アーティスト部門 山田和樹（指揮）
2. 室内楽・合唱部門 濱田芳通&アントネッロ
3. オペラ・オーケストラ部門 日本フィルハーモニー交響楽団
4. 現代音楽部門 西村朗（作曲）
5. 研究評論・出版部門 平間充子『古代日本の儀礼と音楽・芸能：場の論理から  
奏楽の脈絡を読む』（勉誠社）
6. 功労賞 飯守泰次郎（指揮）

### 《ポピュラー》

1. 最優秀作品賞 挾間美帆 『ビヨンド・オービット』（ユニバーサルミュージック）
2. イベント企画賞 「“わ” で奏でる東日本応援コンサート 2023 in 東京」2023 年 3 月 10 日等  
(セイコーグループ株式会社)
3. 新人賞 松井秀太郎（トランペット奏者）
4. 著作出版物賞 輪島裕介 『昭和ブギウギ 笠置シズ子と服部良一のリズム音曲』（NHK 出版）
5. 功労賞 坂本龍一
6. インターナショナル部門 ザ・ローリング・ストーンズ 『ハックニー・ダイヤモンド』  
(ユニバーサルミュージック)

### 《オーディオ》

1. 技術開発部門 テクニクス SL-1200GR2
2. 録音作品部門 ザ・ビートルズ 1962~1966 年、1967~1970 年（ユニバーサルミュージック）
3. 著作出版物賞 細井裕司「医療の最先端 奈良医大からの発信」「MBT なぜ単科の医大に全業種から  
200 社が集まったのか？」をはじめとする軟骨伝導における研究開発

※オーディオ著作出版物賞のタイトルに誤りがありました。修正して関係者の皆さまにお詫び申し上げます。

### 授賞式

2024 年 4 月 16 日(火) 受付 13:30～、授賞式 14:00～

授賞式会場：北とぴあ カナリアホール

〒114-8503 東京都北区王子 1-11-1 電話：03-5390-1100(代表)

2023 年度ミュージック・ペンクラブ音楽賞に関するお問い合わせは下記までお願いします。

MPCJ 事務局 080-8051-6652 / mail1@musicpenclub.com

## 2023年度 第36回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞者一覧

### Comments & Profile

ミュージック・ペンクラブ音楽賞とは、少数の選考委員が選ぶ従来型の賞とは異なり、ミュージック・ペンクラブ・ジャパン約140名の全会員による自主投票によって選定されます。授賞対象は、基本的に、日本でその年に公開または発表された音楽界の全プロダクトやイベントです。それは録音録画の形で発売されたものの他、公演、著作、技術開発を含みます。選考基準は、当会の「クラシック」「ポピュラー」「オーディオ」の分野ごとに設けられ、各分野で授賞対象者・団体をノミネートし、最終的に全会員の分野を超えた投票によって決定されます。

ミュージック・ペンクラブ・ジャパン MUSIC PEN CLUB, JAPAN

会長：潮晴男（オーディオ）、副会長：石田一志（クラシック）・北澤孝（ポピュラー）

2023年度音楽賞選考委員および担当理事

クラシック 選考委員：江藤光紀、萩谷由喜子、宮下博、山崎浩太郎

担当理事：池田卓夫、那須田務（音楽賞実行委員長）

ポピュラー 選考委員：朝妻一郎、北中正和、ヒロ宗和、高木信哉、三塚博

担当理事：中川ヨウ、原田和典

オーディオ 選考委員・担当理事：潮晴男、大橋伸太郎、小原由夫

## 《クラシック》

### ソロ・アーティスト部門



©Yoshinori Tsuru

### 山田和樹（指揮） Kazuki Yamada

内外の複数のオーケストラや合唱団を指揮して、いずれも矚目すべき成果をあげた。読売日本交響楽団との黛敏郎と矢代秋雄をマーラーやR.シュトラウスと組み合わせた交響曲プログラム、東京都交響楽団との三善晃の反戦三部作、日本フィルと齋藤秀雄がらみの作品にウォルトンの交響曲、イギリスのバーミンガム市交響楽団とのお国物のエルガーなど、演奏の充実に加え、日本作品をとっても重視した意欲的な曲目構成の妙が光った。（山崎浩太郎）

プロフィール 山田和樹

2009年、第51回ブザンソン国際指揮者コンクールで優勝。ほどなくBBC交響楽団を指揮してヨーロッパ・デビュー。同年、ミシェル・プラッソンの代役でパリ管弦楽団を指揮して以来、破竹の勢いで活躍の場を広げている。2012年～2018年スイス・ロマンダ管弦楽団の首席客演指揮者、2016/17シーズンからモンテカルロ・フィルハーモニー管弦楽団芸術監督兼音楽監督、2023年4月からバーミンガム市交響楽団の首席指揮者兼アーティストックアドバイザーに就任。日本では、読売日本交響楽団首席客演指揮者、東京混声合唱団音楽監督兼理事長、学生時代に創設した横浜シンフォニエッタの音楽監督としても活動している。

## 室内楽・合唱部門

### 濱田芳通&アントネッロ Yoshimichi Hamada and Anthonello



濱田芳通とアントネッロは2014年度にも同部門を受賞しているが、その後もエイク「笛の楽園シリーズ」、昨年のカヴァーリ《ラ・カリスト》など意欲的な公演を打ち出し、初期バロックに加えてヘンデルの《メサイア》や《ジュリオ・チェーザレ》、J.S.バッハの《マタイ受難曲》など盛期バロックにレパートリーを拡大。ダイナミズムに溢れた演奏

でこれらの名作に新たな光を当てた。濱田の音楽はさらなる深化を遂げ、古楽の枠を超えて幅広い聴衆を魅了し続けている。(那須田務)

プロフィール 濱田芳通&アントネッロ

濱田芳通主宰により1994年結成。以来、「作品が生まれた時のスピリット」を大切に、躍動感と生命力の備わった、音楽の持つ根源的な魅力を追求している。国内外にてCD録音多数。古楽の解釈と演奏において第一線で活躍するグループとして、常にメディアから高い評価を得ている。これまでにホテルオークラ賞、ENEOS音楽賞洋楽部門奨励賞のほか、2014年度には第28回ミュージック・ペンクラブ・ジャパン音楽賞（室内楽・合唱部門）を受賞している。

## オペラ・オーケストラ部門

### 日本フィルハーモニー交響楽団

#### Japan Philharmonic Orchestra



©飯田耕治

2023年9月に就任した首席指揮者、シンガポール出身のカーチュン・ウォンは日本のオーケストラで日中韓以外の国籍を持つ最初のアジア人シェフ。1956年に「NHK交響楽団の対抗馬」として渡邊暁雄が創立した当時の進取の気概の復活ともいえ、マーラーをはじめとする西欧古典と伊福部昭、武満徹など日本やアジアの新旧作品を対比させ、21世紀の日本のオーケストラが目指すべき方向を明確に示す。1972年の旧日本フィル分裂劇から半世紀あまりが過ぎ、名実ともにメジャー楽団の力量を回復するに至った。

(池田卓夫)

プロフィール 日本フィルハーモニー交響楽団

1956年に故渡邊暁雄を中心に創立。首席指揮者カーチュン・ウォン、桂冠名誉指揮者小林研一郎、桂冠指揮者兼芸術顧問アレクサンドル・ラザレフ、フレンド・オブ・JPO(芸術顧問)広上淳一という指揮者陣を中心に年間150回を超えるオーケストラ公演を行う。「オーケストラ・コンサート」「エデュケーション・プログラム」「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱に加え、2011年東日本大震災以来「被災地に音楽を」届ける活動を継続している。BS朝日『Welcomeクラシック』出演中。

## 現代音楽部門



Photo by Jun Sanbonmatsu

### 西村朗（作曲）Akira Nishimura

旺盛な創作意欲をとぎらせることなく、アジア的な宇宙観を紡ぎ続けた。いずみシンフォニエッタ大阪、東京シンフォニエッタといった団体と継続的な協業を続け、生誕70周年に両団体が共同委嘱した三重協奏曲《胡蝶夢》はその成果である。遺作《神秘的合一》もまた飯森範親、小菅優という西村にゆかりのアーティストによって今年1月に初演されたが、これは亡くなる直前までその創作活動が力強く続いていたことを物語る。（江藤光紀）

#### プロフィール 西村朗

東京藝術大学大学院修了。1987年作曲の《2台のピアノと管弦楽のヘテロフォニー》を創作の起点とし、以後、アジアの思想を背景とした作品を内外で多数発表。エリザベート国際音楽コンクール大賞、ルイジ・ダルラピッコラ作曲賞、サントリー音楽賞、毎日芸術賞、尾高賞(6回)などを受賞、2013年に紫綬褒章を受章。19年新国立劇場委嘱作品《紫苑物語》は、日本のみならず海外でも高い評価を受けた。23年9月7日、上顎癌のため死去。69歳。

## 研究評論・出版部門



#### プロフィール 平間充子

栃木県宇都宮市生まれ。お茶の水女子大学文教育学部史学科卒業、東京藝術大学博士号取得（音楽学）。桐朋学園大学音楽学部等非常勤講師、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター客員研究員。専門は、日本音楽史、日本古代の儀礼研究、日本女性史など。共著に『日本女性史論集』7文化と女性（吉川弘文館）、『近世日本と楽の諸相』（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター）、『古代日本の政治と制度：律令制・史料・儀式』（同成社）、『国際歳時記における比較研究：浮遊する四季のことば』（笠間書院）など、翻訳協力に『在外日本学関係資料の調査研究：研究編』（汲古書院）。

### 平間充子『古代日本の儀礼と音楽・芸能：場の論理から奏楽の脈絡を読む』（勉誠社）Michiko Hirama

古代日本ではどのような形、及び、いかなる場で、音楽を伴う儀式、儀礼行為、芸能が繰り広げられていたか、それらの場での用語や概念が明治以降のクラシック音楽文化にどう反映されたか。これを知ることは、クラシック音楽研究全般に携わる者にとっても、一般の歴史・音楽愛好家にとっても有益であろう。この分野の研究書の少ない中、日本音楽史、日本古代史を専門に長年地道な研究を続けてこられた平間充子氏は本書によってその空隙を埋める一助をなした。（萩谷由喜子）

## 功労賞



©武藤章

### 飯守泰次郎（指揮） Taijiro Iimori

ワーグナー解釈では国内の第一人者という定評を築き、数々の上演や新国立劇場オペラ芸術監督で大きな足跡を残した。バイロイト音楽祭の助手や現地の歌劇場での経験を通じてドイツ音楽への造詣を深め、その伝統的な語法を真に体現する本格派として最晩年まで指揮台に立ち続けた。東京シティ・フィルの常任指揮者時代には《ニーベルングの指環》チクルスなどを敢行。生涯最後の演奏会（2023年4月）も同フィルとのブルックナーだった。（宮下博）

#### プロフィール 飯守泰次郎

1962年桐朋学園大学音楽科卒。66年ミトロポーロス国際指揮者コンクール、69年カラヤン国際指揮者コンクールで4位。72年、芸術選奨文部大臣新人賞。ブレーメン、マンハイム、ハンブルクの歌劇場の指揮者、エンスヘデ市立歌劇団第一指揮者、東京シティ・フィル、名古屋フィル、関西フィル、仙台フィルの常任指揮者を歴任。第32回サントリー音楽賞、2004年紫綬褒章、文化功労者（2012年度）、14年日本芸術院会員。2023年8月15日死去。82歳。

## 《ポピュラー》

### 最優秀作品賞



© Dave Stapleton



### 挟間美帆『ビヨンド・オービット』

(ユニバーサルミュージック、作・編曲、指揮) Miho Hazama

2023年2月にNYC パワーステーションで録音された挟間美帆 m\_unit による5年ぶりの新作。ラージ・ジャズ・アンサンブルを基軸にして、ストリングスも交えながら一味違った艶やかなサウンドを築き上げている。彼女はジャズの作・編曲家としてこれまでいくつもの作品を生み出し世界的に高い評価を得てきた。ユニット結成10周年記念の本作品ではその力量が遺憾なく発揮されて、更なる進化が見てとれる。圧倒的多数票で'23年を代表する作品に決定した。(三塚 博)

プロフィール 挟間美帆

国立音楽大学およびマンハッタン音楽院大学院卒業。2012年、ジャズ作曲家としてメジャーデビュー。2014年、出光音楽賞受賞。アルバム『ダンサー・イン・ノーホエア』が2020年米グラミー賞ノミネート。2019年からデンマークラジオ・ビッグバンド首席指揮者、2020年にはオランダのメトロポール・オーケストラ常任客演指揮者に就任。2023年、デビュー10周年記念アルバム『ビヨンド・オービット』リリース。

### イベント企画賞

### 「わ」で奏でる東日本応援コンサート2023 in 東京

2023年3月10日等(セイコーグループ株式会社)



東日本大震災後から始まった本コンサート・シリーズ、2023年3月10日には、オーチャードホールで宮川彬良指揮、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団をバックに、渡辺真知子、サーカス、八代亜紀、ウクライナのソプラノ歌手、オクサーナ・ステパニウクらが歌を歌いついだ。その年のテーマは「笑顔をつなぐ」。大震災直後から東北3県と東京で、音楽で人々を元気づけてきた功績を讃えたい。(中川ヨウ)

プロフィール セイコーグループは製造拠点が岩手県や宮城県、福島県にある縁もあり、東日本大震災の起きた2011年から継続して45回、このコンサートを開催しています。コンサート名称の「わ」には、支援活動の「輪」、皆で一丸となって復興に取り組む調和の「和」、将来への希望や思いをつなぐ「輪」など、さまざまな「わ」を広げたいという強い思いが込められています。これからも人々に笑顔を届けるべく、この活動を継続してまいります。

## 新人賞

### 松井秀太郎 (トランペット奏者) Shutaro Matsui



トランペットの新星、松井秀太郎は、高校ではクラシックを専攻し、国立音楽大学ではジャズを専攻し首席卒業。在学中からプロ活動を開始。2022年、TV「題名のない音楽会」に今注目すべきアーティストとして出演し脚光を浴びる。昨年7月発表のデビュー作『STEPS OF THE BLUE』は、作曲と演奏の両面で出色の出来栄え。昨年9月のブルーノート東京の初ライブも成功させた。新世代のトランペット奏者として今後の活躍が楽しみである。

(高木信哉)



©Tadayuki Minamoto

#### プロフィール

1999年生まれ。国立音楽大学ジャズ専修首席卒業。矢田部賞受賞。これまで、トランペットを奥村晶、エリック・ミヤシロに、ジャズ・アンサンブルを小曽根真ほか各氏に師事。小曽根真によるプロジェクト「From OZONE till Dawn」に参加。23年7月、デビューアルバム「STEPS OF THE BLUE」をリリース。9月にはブルーノート東京にて、発売記念ライブを成功させ、24年1月より全国ツアー「松井秀太郎 Concert Hall Live Tour」を行い好評を博している。自身のリーダーライブ公演、ソロ活動の他にアーティスト・サポートメンバーとしても幅広く活動している。

## 著作出版物賞

### 輪島裕介『昭和ブギウギ 笠置シズ子と服部良一のリズム音曲』（NHK出版）

Yusuke Wajima



NHKの朝ドラ『ブギウギ』で服部良一と笠置シズ子が脚光を浴びた絶妙のタイミングでこの本は登場してきた。著者は20世紀中期に2人が作ったレコードの内容や伝記的エピソードや世相について論じつつ、その音楽が劇場の実演の身体的な試行錯誤を踏まえて生まれてきたことの重要性を、資料を詳細にたどって指摘している。彼らの音楽を歌謡曲史の中だけでなく、同時代の世界の音楽史の中に置いて聞き直すという俯瞰的な視点も素晴らしい。(北中正和)

## プロフィール 輪島裕介

大阪大学大学院人文学研究科音楽学研究室教授。1974 年生まれ。ポピュラー音楽研究、近現代音曲史、アフロ・ブラジル音楽研究、非西洋地域における音楽の近代化・西洋化に関する批判的研究等を通じて音楽史観の 90 度転回を目指す。著書に『踊る昭和歌謡 リズムからみる大衆音楽史』（NHK 出版新書）など。『創られた「日本の心」神話 「演歌」をめぐる戦後大衆音楽史』（光文社新書）で第 33 回サントリー学芸賞、国際ポピュラー音楽学会賞を受賞。

## 功労賞

### 坂本龍一 Ryuichi Sakamoto



Photo by Neo Sora ©2022 Kab Inc.

その斬新な音楽性は YMO での活動、映画『戦場のメリークリスマス』、『ラストエンペラー』の音楽を初め数多くの創造的な音楽を生み出し世界的に高く評価された。また、社会的な問題にも関心が高く、平和問題、自然保護活動、被災地支援などについても積極的に発言し、周りの行動を促すなどオピニオンリーダーとしても大きな功績を残した。最後まで音楽と真摯に向き合う姿を見せたことに対しても多くの人に感銘を与えた。（朝妻一郎）

## プロフィール

1952 年 1 月 17 日、東京生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了。1978 年『千のナイフ』でソロデビュー。同年、YMO の結成に参加。1983 年に散開後は『音楽図鑑』、『BEAUTY』、『async』、『12』などを発表、革新的なサウンドを追求し続けた姿勢は世界的評価を得た。映画音楽では『戦場のメリークリスマス』で英国アカデミー賞作曲賞を、『ラストエンペラー』でアカデミー賞作曲賞、ゴールデングローブ賞最優秀作曲賞、グラミー賞映画・テレビ音楽賞など多数受賞。『LIFE』、『TIME』などの舞台作品や、韓国や中国での大規模インスタレーション展示など、アート界への越境も積極的に行なった。環境や平和問題への言及も多く、森林保全団体「more trees」を創設。また「東北ユースオーケストラ」を設立して被災地の子供たちの音楽活動を支援した。2023 年 3 月 28 日逝去。



## インターナショナル部門



© Mark Seliger



©ザ・ローリング・ストーンズ

### 『ハックニー・ダイヤモンド』

ワッツ(ds)。69年にジョーンズが脱退し、ミック・テイラーが参加。76年、テイラーの後をうけてロン・ウッドが加わった。93年のビル・ワイマン脱退、2021年のチャーリー・ワッツ死去を経て、いまなお転がり続けるロックの代名詞的グループ。

## ザ・ローリング・ストーンズ

### 『ハックニー・ダイヤモンド』

(ユニバーサルミュージック)

#### ハックニー・ダイヤモンド

16年発表の『ブルー&ロンサム』はブルース名曲集だったので、オリジナル・スタジオ・アルバムとしては05年の『ア・ビガー・バン』以来18年ぶりのリリースとなる。1990年生まれのプロデューサーであるアンドリュー・ワットとタッグを組み、ゲストにはポール・マッカートニーやレディー・ガガの名も。21年に逝去したチャーリー・ワッツ参加のトラックもあるのも嬉しい。世代も生歿も超越したロックの宴に酔いしれるのみ。(原田和典)

#### プロフィール

1962年、ロンドンで結成。63年にシングル「カム・オン」でデビュー。当時のメンバーはミック・ジャガー(vo)、キース・リチャーズ(g)、ブライアン・ジョーンズ(g)、ビル・ワイマン(b)、チャーリー・

## 《オーディオ》

### 技術開発部門



### テクニクス SL-1200GR2

テクニクスのダイレクトドライブ式アナログプレーヤーのベストセラー機にして、その最新型の本機は、外観上やスペック面では先代機等と何ら変わらなく映るが、内部には大胆にメスが入れられ、大幅なパフォーマンス向上が果たされた。具体的には、かつて1ビット・デジタルアンプで活用されていた「 $\Delta\Sigma$ （デルタシグマ）変換技術」を電源部のモーターの駆動/回転制御に応用。「 $\Delta\Sigma$ -Drive」と命名し、その誤差検出によって回転ムラや振動を抑え、

安定かつ静粛、高精度な回転性能を実現した。従来機の音と比較してみれば、その微細な描写力と音場空間表現力の違いに驚かされる。(小原由夫)

### 録音作品部門

### ザ・ビートルズ 1962～1966年、1967～1970年 (CD、配信他) (ユニバーサルミュージック)



ジャイルズ・マーティンとサム・オケルによるザ・ビートルズ・アルバム・アーカイブの最新作。AIでボーカルや各楽器の演奏を分離して取り出すMALを活用、1960年代2、4トラックで録音され従来不自然だったステレオ定位とバランスを巧みに調整した。一筋縄でいかないシングル曲が多く収録された1962年～1966年(赤盤)に興味が集まらなすがちだが、スタジオワークに専念した1967年以降の楽曲の従来ミックスからのバランスの変化も興味深く、1967年～1970年(青盤)も聴く価値が高い。コアなファンから〈入門篇〉と軽視されてきた両盤だが、音楽制作に大きな変化が相次いだ1960年代に創造活動がオーバーラップするかれらの音楽を俯瞰できる価値は大きい。(大橋伸太郎)

## 著作出版物

細井裕司「医療の最先端 奈良医大からの発信」

「MBT なぜ単科の医大に全業種から 200 社が集まったのか？」

をはじめとする軟骨伝導における研究開発 Hiroshi Hosoi



奈良県立医科大学の学長であり、医学博士の細井裕司氏が提唱する、聴覚経路の「軟骨伝導」について著されたものである。従来の骨伝導と異なり、この伝導方式を応用すれば聴こえの悪い人にとっても生活改善の余地があると記されている点に大いに注目した。鼓膜には神経機構はなく単なる振動板であり、音を聴くことによって難聴になる疾患部位は蝸牛であると細井氏は問題を提起している。そして難聴を克服する方法として軟骨伝導の説明がなされているが、この方法を用いれば、加齢による難聴だけでなく、若年性難聴にも光が当たる。現在も引き続き研究が進められる将来的な可能性を示唆した貴重な著書であり、今もなお「軟骨伝導」についての熱心な研究がおこなわれていることに対しても高く評価すべきものがある。オーディオ部門か

らの推薦であるが、クラシック、ポピュラーの選考委員からの賛意も得て、この著書及び研究開発に対して著作出版部門で顕彰したいと思う。(潮 晴男)

### プロフィール

1948 年生まれ、2014 年奈良県立医科大学学長に就任。医学博士であり、聴覚医学の専門家として軟骨伝導聴覚の存在を世界で初めて発見。26 の論文を発表し軟骨伝導に関する第一人者として広く知られる一方、軟骨伝導補聴機器の開発に積極的に取り組んでいる。また医学を基礎とするまちづくり…MBT(Medical Based Town)という新しい概念を提示する、一般社団法人 MBT コンソーシアムの理事長も務めている。